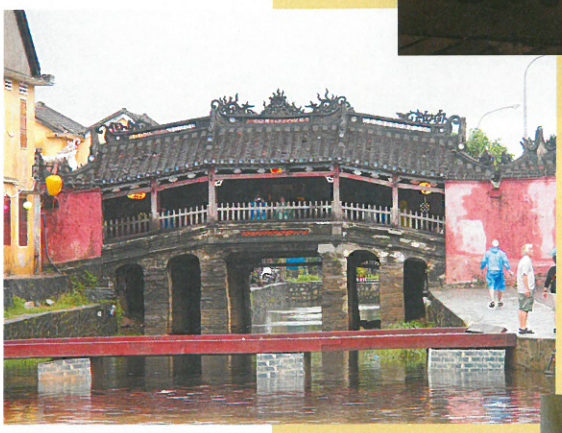
NPO JCP NEWS

No. 28・2013.12.20

・平成25年度「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」レベルⅡ～「陸前高田学校」～報告
・平成25年度「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」レベルⅠ報告
・ベトナム世界遺産遺跡スタディツアー報告
・事務局通信
・書籍紹介

ベトナム・ホイアンの夜景
（足立敦子様撮影）



ベトナム・ホイアン 来遠橋
（里井和行様撮影）

「陸前高田学校」民俗資料の安定化処置実習

「陸前高田学校」掛軸の安定化処置実習

平成25年度

「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」 レベルⅡ

～「陸前高田学校」～　報告

平成25年7月29日（月）～8月5日（月）、陸前高田市立博物館において「陸前高田学校」を開催しました。このセミナーは、東京で行っている「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」のレベルⅡに相当するもので、今年で2回目の開講になります。レベルⅠ修了生に加え、東日本大震災被災地域の専門家が参加し、実際に被災した資料を対象として、処置方法や環境管理などを学びました。

今回は、2名の参加者に参加報告を寄せて頂きました。

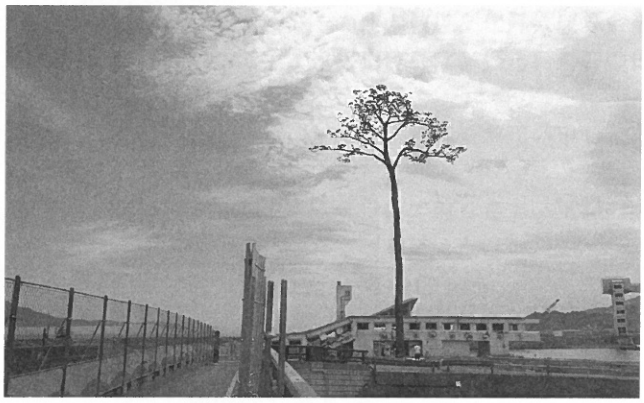
「陸前高田学校」を終えて

生島　修平（㈱東都文化財保存研究所）

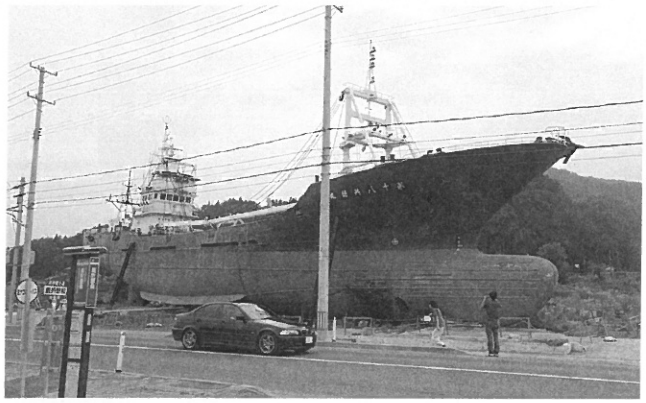
昨年度に引き続き、今年度も東日本大震災の被災地である陸前高田市を中心に「陸前高田学校」が開校されました。昨年、「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」のレベル1を受講した際に「陸前高田学校」に参加された方の話を聞き、私も被災資料の保存修復方法を勉強するとともに、少しでも被災地の方の助けになりたいと思いました。幸い勤務先からも参加の打診があり、今年度、参加させていただいた次第です。

日程は7月29日から8月5日までの七日間で、開校前日に宿泊先のある気仙沼市に到着し、津波被災地を初めて目の当たりにしました。その光景はいくつかの建物が残るものの、一面緑の草々に覆われ、その合間に建物の基礎部分が見え、今現在は瓦礫がほとんどない状況でした。陸前高田市も同様の光景で、現在は高台移転のため、丘陵地を削平している様子が見えました。私が想像していた被災地は依然として瓦礫が存在している状況で、少々違和感がありました。これはテレビや新聞でも、最近は津波被災地の状況を画像で伝えることが少なくなってきた傍証ではないでしょうか。8月5日に気仙沼港から打ち上げられた「第十八共徳丸」の解体決定が各局で報道されましたが、これにより久しぶりに被災地の状況を目にした人も少なくないでしょう。

さて、今年の「陸前高田学校」は、初日を含む二日間が座学による講義、三日目から四日間が実習、最終日が岩手県立博物館における見学・講義という形で進められました。



陸前高田市「奇跡の一本松」

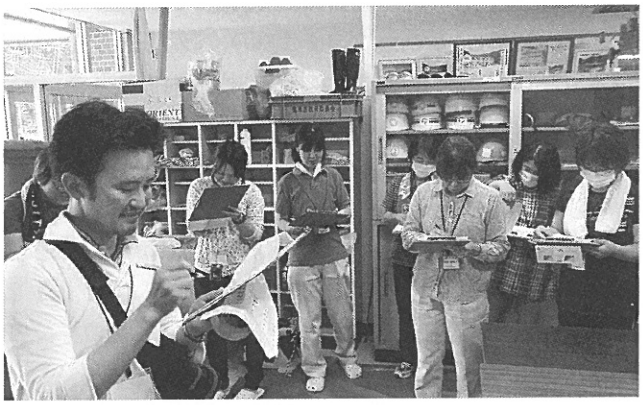


気仙沼市　陸に上った「第十八共徳丸」

座学では、和田浩先生、高鳥浩介先生、増田勝彦先生の講義により、現在の陸前高田市立博物館である旧生出小学校の立地環境から見た第一次保管環境としての適性、海水損資料におけるカビの発生の可能性、早

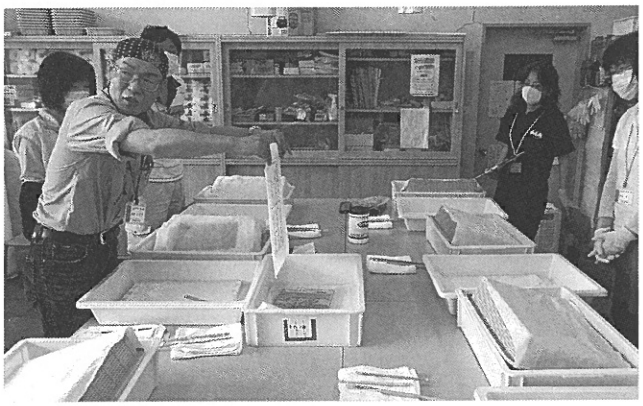
急的な安定化処理が求められる和紙の特性などをご教示いただきました。特に東日本大震災の特殊性で、進行型の文化財破損である「海水損」に対する「安定化処理」や、生出小学校を博物館施設に相当し得る環境へと整備することの必要性を学ぶことができました。

また、和田先生の講義の中で、生物生息調査の一環として害虫トラップを設置しましたが、五日後の回収時には玄関、ランチルームを中心に数多くの害虫が検出されました。これはいくら注意を払っていても、山間部の施設である点、本来博物館として設計されていない点から生じるものであり、いかに被災文化財の「第一次保管環境」の選定が難しいのかを実感しました。また現在は空調設備による温度管理などが可能になりましたが、収蔵施設として使用されている教室の温湿度管理も必要不可欠であり、既存の建物を博物館として機能させるための対応策を学ぶ良い機会となりました。



和田浩先生「第一次保管環境の管理」

三日目からは実習として和本、掛軸などの紙資料、民具の安定化処理を行いました。ここでは主に海水損資料の脱塩処理を中心に進められ、和本、民具に関しては筆や刷毛などにより土砂を除去した後、超音波洗浄機を用いて洗浄しました。この超音波洗浄機は今年から導入され、年々生出小学校の環境改善がなされていることを嬉しく思うとともに、陸前高田市立博物館を支えてくれる後ろ盾の存在が垣間見えました。



砂田比左男先生「和本の安定化処理」

なお、この実習の中で砂田比左男先生がおっしゃられた言葉が忘れられません。砂田先生は、この実際の資料を使った実習を単なる「作業」としてではなく、「仕事」として取り組んでもらいたいとおっしゃられました。それは陸前高田市立博物館の収蔵品は陸前高田の方々の寄贈資料が大部分で、そこには陸前高田の方たちの「思い」が詰まっており、それを単なる「作業」ではなく、その「思い」を後世につなぐ役目である「仕事」として取り組んでもらいたいということです。私はその「思い」を胸に留めて今回の実習に臨みましたが、それと同時に、普段の仕事においてもその「思い」を大切にして、資料に向き合っていきたいと思いました。

鈴木晴彦先生「掛軸の安定化処理」

紙幅の関係で、主に生出小学校における講義・実習の感想になってしまいましたが、この「陸前高田学校」を通してみてみると、実際に被災地へと足を運び、自分の目で見て感じることは、被災資料だけでなく、普段扱っている資料への向き合い方にも影響を与えるものでした。その点で今回の経験は私にとって成長につながったと言えます。しかしながら、少しでも被災地の方の助けになればという思いで参加させていただきましたが、逆に甘える形で自身の成長を助けてもらった憾があります。この恩を、今後何らかの形で返していきたいと思っている次第です。それは被災資料の保存に共に向き合っていくことなのかもしれません。仮にそうであるならば、その第一歩として来年度もこの「陸前高田学校」に参加し、陸前高田市立博物館の皆さんと共に被災資料の保存に向き合っていきたいと考えています。

最後になりましたが、今回の「陸前高田学校」において様々なことをご教示くださった諸先生方、本多文人館長をはじめとする陸前高田市立博物館の職員の皆様、岩手県立博物館の職員の皆様、そしてご協力くださったJCP事務局の皆様に厚く御礼申し上げます。

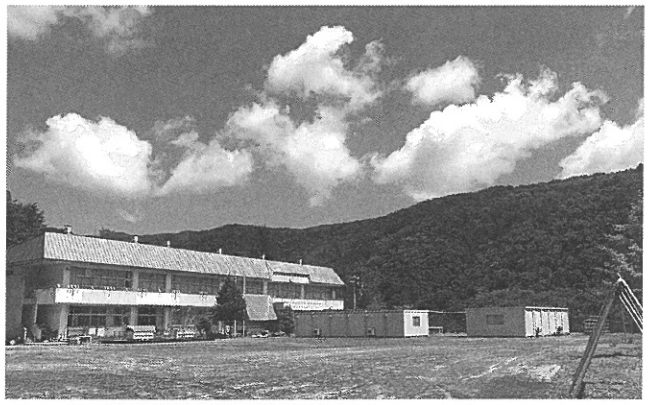
平成25年7月　陸前高田市　旧生出小学校においての文化財レスキュー

吉野　綾子（東北大学大学院）

研修が行われた場所は、旧生出小学校である。生まれ出ると書いて「おいで」と読む。まさに、名のとおり文化財が再び生まれ出る場所だと私は理解した。旧生出小学校に向かう坂道にはアジサイが美しく、坂を登りきると、白いユリが清々しい香りとともに毎日迎えてくれた。その中で行われる講義と実習は実践的でとても貴重なものであった。研修内容は熊谷先生による特別講義、環境管理の方法、微生物への対応や紙の特性の講義、被災した文化財資料の脱塩作業の実習、最終日は岩手県立博物館へ移動し博物館内で行われている被災文化財資料の保存修復作業の見学であった。

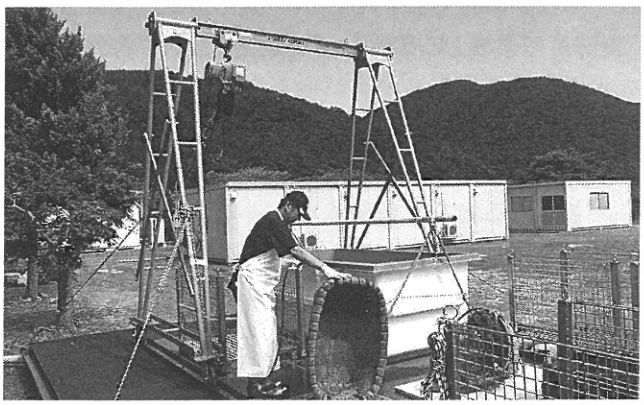
現在、旧生出小学校では二次レスキュー作業が行われている。一次レスキューは安全な場所へ文化財資料を移動させることで、二次レスキューとは、安全な場所へ移動させた文化財資料の劣化要因を除去する作業である（安定化処理作業）。今回の実習では紙、拓本、民具資料木器の脱塩処理を行った。

レスキュー作業では限られた空間、限られた道具 を用いて効率的な作業方法を考える必要がある。実習では、被災当時から今日に至るまでレスキューに携わってきた方々が生み出した方法や現在の作業方法に至るまでの過程やその記録を詳しく教えていただいた。例えば、サクションテーブルの代わりに使う板、防水性があり、ずれにくく使用するのに効果的なシート、傾斜をつけたテーブルを用いる方法（脱塩するためには水を使用するので滞留しないようにするため）、などである。



現在の陸前高田市立博物館（旧生小学校）

民俗資料の安定化処理



大型の民具安定化処理のための装置

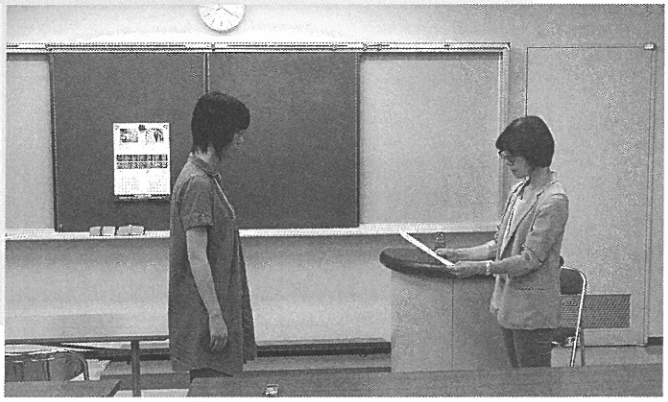
和綴じ本の脱塩作業では、刷毛と筆を使い本紙を傷めないよう、一定方向に筆を動かし静かに塩分と砂を払う。一筆一筆心を込めて筆を動かす。民具の作業では使用痕を消さないように刷毛と筆を使って塩分と砂を払っていく。その後、それでもとることができない汚れを洗浄するため超音波洗浄をする。

作業を通して、たくさんの歴史と思いが詰まっている文化財の保存修復作業に携われることに、畏敬の念と文化財との出会いの喜び、それを扱う責任の重さを感じた。旧生出小学校での作業はより良い方法やより効果的な作業工程が見つかり次第改善しながら行われている。旧生出小学校で行われているこの作業の可能性は未知数で期待は大きいが経過する時間とともに課題は多くなっている。さらに安定化処理を待っている資料の数は莫大である。今回の作業を経験し、私はこの旧生出小学校で実践され取り組まれている文化財のレスキュー作業は、世界的にも意義のある貴重な活動だと確信している。今後、洪水で被害を受けたあるいは洪水で悩まされている多くの国にとってもこれまでの旧生出小学校での取り組みは生かされるだろう。

多くの人の力とつながりがなければもの言えぬものたちを助けることは難しい。より強固なネットワークの形成をめざし、うまれいずる場所、旧生出小学校から多くの文化財が息を吹き返してくれることを願う。私自身もこの活動を通して自分の目で学び、自分の手で直接学んだことをしっかりと生かしていきたい。

陸前高田市立博物館（旧生出小学校）
校庭での懇親会

岩手県立博物館　赤沼英男先生のレクチャー



最終日　修了証書授与式

謝辞：

このセミナーは、東京国立博物館、陸前高田市立博物館、陸前高田市教育委員会、岩手県立博物館の共催により、日本郵便株式会社の平成25年度年賀寄付金の配分を受けて行われました。また、（公財）文化財保護・芸術研究助成財団、文化遺産国際協力コンソーシアム、一般社団法人　文化財保存修復学会、日本文化財科学会、（公財）日本ユネスコ協会連盟のご後援を頂きました。ここに厚く御礼申し上げます。

とりわけ、お忙しい中多大なご協力を賜りました講師各位に、この場を借りて深謝申し上げます。

平成25年度

「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」レベルⅠ　報告

東京国立博物館との共催で歩んできたこのセミナーは、今年で6年目を迎えました。今年度の参加者は、継続受講生11名に26名の新規応募者を加え、計37名となりました。これは今迄の中で最も多い受講者数となります。期日は8月19日～29日。今期は東博で研修をしている韓国の文化財専門家や、文化活動の支援に積極的に取り組んでいるメリルリンチ日本証券株式会社CSR（Corporation Social Responsibility）推進責任者に特別講義をお願いするなど、例年にも増して特色あるカリキュラムを組むことができました。

現在報告書を編集しておりますので、会員の皆様には来年4月にお届けできる予定です。詳細はそちらをご覧下さい。

謝辞：

セミナーレベルⅠ・Aコース（平成25年度）開講にあたりましては、お忙しい中、講師をお引き受けくださいました専門家各位、助成を賜りました（独）日本芸術文化振興会・芸術文化振興基金に厚く御礼申し上げます。また、下記の団体に種々お世話になりました。記して深謝申し上げます。

- （公財）文化財保護・芸術研究助成財団
- 文化遺産国際協力コンソーシアム
- 一般社団法人　文化財保存修復学会
- 日本文化財科学会
- 公益社団法人　日本ユネスコ協会連盟
- 株式会社　喜屋 ／ 有限会社　浜野顕微鏡
- 株式会社　パレット

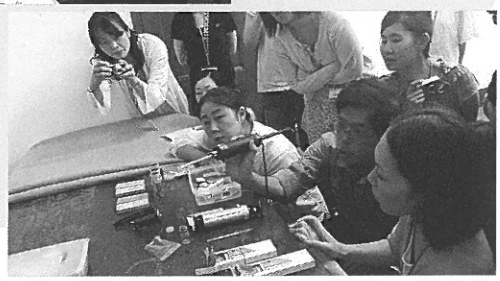
◆「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」レベルⅠ　講義風景

三輪嘉六先生「修復倫理」

鈴木晴彦先生「臨床保存」

大河原典子先生
「模写模造」

神庭信幸先生「光放射」



及川規先生「空気汚染」

ベトナム世界遺産・遺跡スタディツアー開催報告

今年の世界遺産・遺跡スタディツアーは、11月12日（火）～17日（日）の日程でベトナムを訪ねました。参加者は、19名。団長、副団長、事務局合わせて総勢24名での催行となりました。

今回のスケジュールは、北のハノイから入って、中部のフエ、ホイアンを訪ね、南のホーチミンから出国するという、南北に長いベトナムを縦断する旅でした。ハノイは曇り空、フエ、ホイアンは雨季、ホーチミンは真夏日という、毎日変わる気候に振り回されながらも、全員元気に帰国いたしました。

ハノイで2日間ご案内いただいたベトナム国立大学ハノイ校のファム・レ・フイ先生、国立歴史博物館国際部のTran Thi Thuy Ngan様、ちょうど漆絵修理協力のため歴博滞在中であった目白漆芸文化財研究所の大西智洋様、民俗博物館のHoang Thi To Quyen様、ご助言を頂いた九州国立博物館職員の皆様、後援団体各位、今回の旅行をアレンジして下さった賛助会員　㈱フレンドトラベル様に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

では、詳細を参加者のお二人にレポートしていただきましょう。

ベトナム世界遺産・遺跡スタディツアーに参加して

足立　敦子

ベトナムはベト族を中心とした54の民族から構成され、食や文化に中国やフランスの影響が色濃く残っています。また長きにわたる戦争の歴史を持つ国で、今回見学した遺跡にも多くの爪痕が残されていました。中でも印象的だったのは2度の戦争で被害を受け、諸所に弾丸の痕が残るグエン朝王宮です。木造の大和殿は、下地なく瓦を葺いた為に雨漏りで柱が腐り、鉄の柱で補強されていました。ずいぶん古い修復とはいえ、素人目に見ても大胆過ぎる補修に驚かされました。ベトナム戦争の被害が甚大で、多くの建物に補修工事が行われており、現状では手が廻らない様子。世界遺産

グエン朝王宮（フエ）　大和殿

に登録されたこともあり、これからは修復工事もすすむだろうとのことですが、それまでこの建物が保たれるのかとても不安な気持ちに駆られました。

多人数が乗った大量のバイクに多い尽くされる道路、ギネスに登録された世界最大の陶器モザイク壁画、その一方で市場や店前で鶏や魚を捌くなど、完全に近代化しきっていない泥臭さも残した街、ハノイは、今回廻った中で一番フランスの影響が見られました。ここでは国立歴史博物館のバックヤード、作品の修復現場と採掘現場を見学させて頂きました。謎に包まれた作品を巡る、各分野のエキスパートの先生方の議論がとても印象に残っています。

ホイアン旧市街ではノスタルジックで美しい夜景を楽しみました。川に映るランタンの暖かく淡い光、そして灯篭…東京のイルミネーションとは一味違う幻想的な風景は今も脳裏に焼きついています。

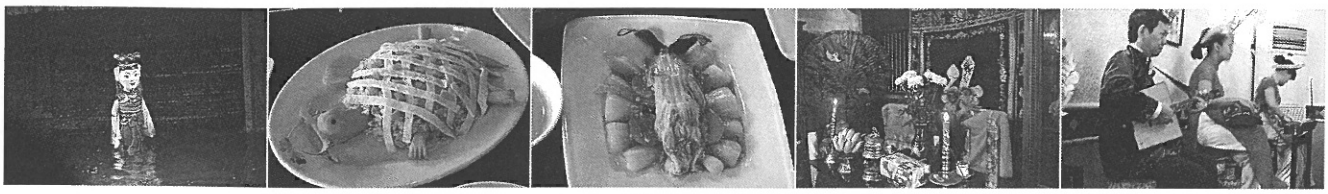
しかしその翌日、台風接近による低気圧の発生に伴い予想をはるかに超える大雨に見舞われました。ミーソン遺跡敷地内の川が氾濫しており、遺跡見学を躊躇われました。結局川の水量が比較的少ないこともあり、果敢に川を渡り遺跡へ歩を進めました。身軽に見学することはできませんが、大雨の中でも荘厳に佇む様に歴史の重さを感じます。しかし喜びのつかの間、帰りには川の水量は腰下高へと増し、水の勢いも強くなり足をとられ、全員ずぶ濡れで命がけ？の川渡りに……。無事渡りきったものの、帰途に膝下程度の川が更に３つも出現しており、ベトナム中部の雨季対策に持参した雨具も雨量と４度の川渡りには勝てません。現地ガイドの方も「こんなことは今までない」と言い切るミーソン遺跡の思い出深い体験でした。

ミーソン遺跡手前　川の氾濫

記念撮影をする婚約者たち

毛色の違うそれぞれの都市で連日見学し、美味しい料理に舌鼓を打つ思い出深い旅でしたが、いずれの地でも伝わってきたのは平和を喜び、まだまだ発展しようとする活気溢れる逞しさでした。また道中多くの遺跡や歴史的建造物の前で、アオザイのまぶしい女子学生や婚約者達が卒業や結婚式の記念写真を撮っている姿を目にしました。こうして文化財が親しまれていくのは大切なことだと思います。

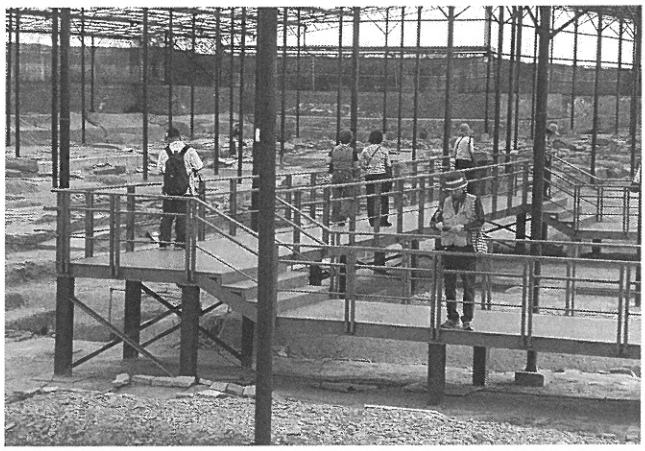
最後になりましたが主催者、事務局の皆様、現地でご説明くださった方々、そしてスタディツアー初参加の私を温かく迎えて下さったツアー参加者の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



ベトナム世界遺産・遺跡スタディツアーに参加して

吉村　一紘

ベトナム世界遺産遺跡ツアーで、初めてスタディツアーに参加させてだきました。どんよりとした曇りの、11月12日初冬の福岡から、5時間で首都ハノイへ着きました。暑さは、到着直後は余り感じなかったのですが、空の青さが眼に沁みました。



タンロン遺跡

国立歴史博物館バックヤードで、大西智洋様の説明を聞く

最初に訪れたハノイでは、仏教寺院やタンロン遺跡を見学しました。中国の影響を受けた遺跡群で、現在も調査が継続されている所を、ベトナム国家大学のファム・レ・フイ先生から特別に見せていただきました。これも、このスタディツアーならではの貴重な経験だと思いました。又国立歴史博物館では、日本人2名の方が、仏画の修復作業に携わっていて、日本との文化交流が行われていることを知りました。

タムロン遺跡前の広場で、現地の大学生の卒業写真の撮影が行なわれていました。アオザイを着た女学生に、私たち一同は見惚れていました。三輪団長の下、フイ先生が、一緒に記念撮影を、申し入れていただき記念写真を撮ることが出来ました。よく見ると、男子

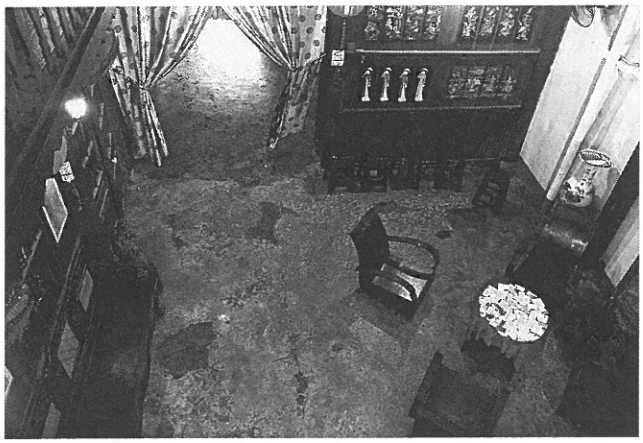
アオザイを着た女学生たちと記念写真.

学生も居たことが、後でわかる始末。アオザイの女子大生に、魅入った時間でした。

中部では、ホイアンの世界遺産である街並みや、17世紀に栄えた日本人町を訪れ、日本の商人（堺、長崎、博多）及び航海術の優れた先人が居た事を知り、思いをはせました。又ホイアンの街興しに日本の研究者や技術者が活躍し、世界遺産に登録されたとの事にも感嘆いたしました。

雨季のミーソン遺跡探訪は、思い出深いものとなりました。遺跡よりも、遺跡までの歩きが忘れ難い体験になりました。駐車場で、ビーチサンダルとレインコートを購入し、装備を整えました。前日までの雨で、川の橋上まで水位が上がっていました。往路は膝位の水位でしたが、復路は太腿までになっていました。（事務局からの、ドレスコードを守り、事なきを得ました。皆さんも、無事でした。）

南部では、ホーチミン市内観光と買い物をしましたが、大変楽しく面白かったです。ツアー終了頃にようやく、1ドルが2万ドン　100円の為替レートの感覚が判ってきました。



ホイアン　フーンフンの家（200年前に立てられた貿易商の家）

今回の旅行の目的はベトナムの世界遺産遺跡を尋ねる事でした。私は事前のベトナムに関する歴史文化等の知識は皆無の状態でしたが、現地を訪問し、先生やガイドの方の説明を受け、大変興味深く思うようになりました。又ベトナムの活気ある、市街地、人々に、応援をしたくなる旅でした。

先生方々並びに事務局、参加者皆様方に、御世話様になり有難うございました。

JCP事務局通信

■文化財保存支援機構主催シンポジウム「今、文化財が社会にできることII」
——人はなぜ伝えようとするのか？ ～文化財による被災地復興のこころみ～ 開催決定

メールマガジン等でもご案内しております通り、来年4月26日(土)に、標記のタイトルでシンポジウムを開催します。

このシンポジウムは、平成24年1月8日に行ったシンポジウムの第2弾で、前回に引き続き朝日新聞文化財団の助成を得て行われます。

東日本大震災の被災地では、いち早く民俗芸能が復興しました。そのひとつ、南相馬市の相馬野馬追いはよく知られています。今回は、南相馬市教育委員会からも講師をお招きする予定です。

また、原発事故により全村避難をしている飯舘村から、三匹鹿舞の継承保存に取り組んでいる方々を招き、公演をして頂く予定です。今回はこうした無形/有形民俗文化財に光を当て、文化財が人間社会の復興にどのように寄与できるのか？を問いかけます。

土地を離れてもなお伝統文化を守ろうとするのはなぜでしょうか？——文化と人間の関係を検証し、被災地における文化支援のありかたを考えるきっかけになればと思います。皆様是非今から参加をご検討ください。よろしくお願いいたします。

■ご寄付をありがとうございました。

現在JCPでは、陸前高田市をはじめとして、被災文化財の救援活動に支援を行っています。現在同市から請け負っている拓本の抜本修復には、和紙その他表装材料等を寄附、あるいは格安で提供して頂くなど、ご支援を頂いております。ここに記して深謝申し上げます。

・上窪良二様／㈱岡墨光堂様／㈲根本様／長谷川和紙工房様／速水商店様／福西弘行様／㈱枡表様／㈱ヤマトロジスティクス様

現在災害対策寄付金は以下の通りとなっております。皆様の暖かいお志しに、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

2013年4/1	繰越残高	793,816円
	個人寄付金	＋60,682円
	民具調査	－130,344円
	関西ER活動費	－165,740円
現在寄付金残高		**558,414円**

書・籍・紹・介

●たまにはこんな本も……

『文化と外交
——パブリックディプロマシーの時代』

著者：渡辺　靖

2011年10月25日発行
発行　中央公論新社
〒104-8320
東京都中央区京橋2-8-7
TEL：03-3563-1431
定価　780円＋税　204ページ

文化による外交戦略（時に侵略）は、民族が興亡を繰り返してきた大昔からの手法である。グローバル化が進む今日においても、「パブリックディプロマシー」「国家ブランド化」「ソフトパワー」などと概念を変化させつつ、効果的な外交手段として取り入れられている。一見平和的な手法と見えながら、プロパガンダ、国粋主義への偏向というリスクも内包する。一方ユネスコ憲章にあるように、多様な民族の心を融和させる有効な処方箋でもある。どのようにバランスを取って文化による平和外交を牽引していくか……それは「クールジャパン」を標榜する政治のみならず、民間非営利組織の課題でもあろう。

文化財保護に関わる人々も、時にはこのような視点から自分の立ち居地を確認することが必要ではないだろうか。

ご入会ありがとうございました。

（平成25年12月20日現在入会者数）

■理事　7名
■維持会員　8名
■登録会員　170名
■一般会員　110名
■学生会員　79名
■監事　1名
■評議員　2名
■賛助会員　28件

株式会社　宇佐美松鶴堂
株式会社　宇佐美修徳堂
株式会社　岡墨光堂
株式会社　絵画保存研究所
株式会社　桂文化財修理工房
財団法人　元興寺文化財研究所
京都造形芸術大学　日本庭園・歴史遺産研究センター
国富株式会社　長崎営業所
株式会社　芸匠
株式会社　光影堂
有限責任中間法人　国宝修理装こう師連盟
株式会社　坂田墨珠堂
株式会社　修美
株式会社　修護
株式会社　松鶴堂
宗教法人　正法院
中部資材株式会社
株式会社　東都文化財保存研究所
日本通運株式会社　美術品事業部
株式会社　半田九清堂
長谷川　聡
百元　節
株式会社　フレンドトラベル
有限会社　文化財修復技術研究所
株式会社　文化財保存
山領絵画修復工房
他　個人4名（アイウエオ順）

NPO JCPの活動に参加してみませんか?

■登録会員：年会費　7,000円
文化財保存に関わる専門的技能を持ち、プロジェクト遂行に協力する個人。
登録会員は文化財の保存事業を行うための専門家で、文化財に直接関わる専門家とは限りません。

■一般会員：年会費　5,000円
この法人の目的に賛同し、支援する団体、個人。

■学生会員：年会費　3,000円
大学または大学院に相当もしくは準じる教育機関の学籍を持ち、この法人の目的に賛同して入会する個人。

会員特典：季刊情報誌の送付
講演会／研修会等への優先参加

※入会ご希望の方は、ファックス、電話、メールにて申込用紙をご請求ください。折り返し資料をお送りいたします。また、ホームページからでも入会申込ができます。
TEL. 03-3821-3264　FAX. 03-3821-3265
E-Mail: jimukyoku@jcpnpo.org
URL: www.jcpnpo.org

※現在JCPでは、東北地方その他の被災文化財救援募金を受け付けております。ご連絡頂ければ、振込料無料の振込用紙をお送りいたします。
皆様の暖かいご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

※この他にも、随時寄附を受け付けております。下記の郵便振替、あるいは銀行口座をご利用ください。

・郵便振替　00120-4-10545
NPOJCP
・三菱東京UFJ銀行　四谷三丁目支店
普通預金　3960340
特定非営利活動法人　文化財保存支援機構
理事　三輪嘉六
・みずほ銀行　根津支店
普通預金　1727893
特定非営利活動法人　文化財保存支援機構

NPO JCP NEWS
第28号
2013年12月20日発行
特定非営利活動法人　文化財保存支援機構
〒110-0008
台東区池之端4-14-8　ビューハイツ池之端102号
TEL：03-3821-3264　FAX：03-3821-3265
E-mail: jimukyoku@jcpnpo.org
URL: www.jcpnpo.org
関西支部
京都造形芸術大学
日本庭園・歴史遺産研究センター内
TEL：075-791-8519

〈理　事〉
三輪　嘉六（理事長）
大林賢太郎（副理事長）　西浦　忠輝（副理事長）
増澤　文武　沢田　正昭
増田　勝彦　三浦　定俊
〈評議員〉
田邉三郎助　荒木　伸介
〈本部事務局〉
八木　三香（事務局長）　松本　洋子
〈関西支部事務局〉
伊達　仁美（事務局長）